

かけはし



千住大橋 昭和2年開橋祝い(写真・大林組)

NPO 千住文化普及会

平成18年7月7日
千住文化普及会発行
代表理事 榎原文夫

東京都足立区千住河原町29-5
遊学庵
TEL/FAX : 03-3881-3232
BLOG : sembun.exblog.jp



代表理事 榎原文夫

千住文化普及会会報の 創刊にあたって

健全な町づくりには人づくり、人づくりには心づくりが必須です。心は、自然や文化歴史とのふれあいによって育ちます。幸いにして足立区には千住地区をはじめそれぞれに歴史ある伝統生活文化を伝承しようという気運があります。地域の子どもは地域で育てる視点を持ち、地域の誇りある文化遺産を教え、伝えることができれば、子ども達にふるさとが宿り、郷土愛も育まれるのではないのでしょうか。私達は、地域文化の発掘、継承、創造を通じて、こころのふるさとを懸け橋になれるよう願っています。

千住文化解説員養成のための 「基礎講座」概要決定

江戸時代から宿場町として栄えてきた千住の暮らしと文化を調べ、学び、伝えていくために、文化解説員養成のための「基礎講座(全六回)」を開講する。

当講座は、足立区郷土博物館の協力を得て構成され、講座終了時に「終了証」を交付する。その後、専門講座へと引き継ぎ、終了時に千住文化をガイドする解説員(語り部)として活躍していただくための認定試験を実施。「認定証」を交付する。

「基礎講座」日程・内容

- 第一回 平成一八年九月一〇日(日)
ガイダンス 本講座の主旨
- 第二回 一〇月一五日(日)
千住を歩く・南北縦断編
- 第三回 十一月一九日(日)

千住を歩く・東西横断編
四月 二月一〇日(日)

千住を学ぶ・江戸時代編
五月 平成一九年一月二日(日)

千住を学ぶ・明治から現在
六月 二月一八日(日)

千住の町案内・実地講習
各回とも午後一時三〇分から三時一〇分、第二、三回は午後一時から四時まで。会場は学びピア21研修室を予定(都合により千住内の別会場、現地集合となる場合あり)

第一九回「奥の細道」 足立サミットに参加

五月一三・一四の両日、北千住1010シアター・ギャラリーにて、千住と芭蕉にまつわる史跡・文献・書画等、及び様々な芭蕉像を展示出展。他の文化団体と連携して、「奥の細道」矢立での地「千じゅと云所」

をアピールした。

分科会としての「千住連句会」では、「季語研究会」の協力を得て、笠着連句を興行。脇起世吉「行春や」、脇起歌仙「かくれ家や」を首尾し、実質的な第一回連句会となった。今後、「連句会」は、当面毎月第四日曜に俳諧鑑賞、連句実作を行うとともに、千住における俳句文芸を発掘学んでゆく。

第二回は六月二五日(日)午後四時より、「遊学庵」にて開催。

第一回歴史文化探訪 日光街道を歩く

〜日本橋から千住宿まで〜
五月二八日(日)、江戸と千住の位置関係を体感する街道ウォークを実施。参加費五〇〇円、参加者一五名。午後一時三〇分、中島喜文氏作成の資料・地図配付、理事長の注意事項をうけて、日本橋東側魚河岸跡広場を出発。日本橋元標を確認。芭蕉住居跡、小伝馬町牢屋敷跡、石町の時の鐘を見学し、横山町の緋帷間屋街を巡って柳橋を渡り、浅草見附跡へ。蔵前通りを進み、駒形堂を見て浅草寺・三社さまを抜け、待乳山聖天に至るまで江戸の名残りを探訪した。

参加者の状態から判断して、今回はここまでとし、浅草から千住までの行程は次回のお楽しみとなった。

■一斉にツバメの子が巣立っていった。子育てのためにはるばるやってくる優美な燕尾服のお客さまを、いつまでも変わらず迎えられる健やかな街であり続けますように。(筆)

- 4月8日(土) pm 6時30分~8時 学びピア21・4階研修室/設立総会
- 4月14日(金) pm 6時30分~8時 遊学庵/理事会
- 4月26日(水) 東京都庁/NPO法人登記
- 5月9日(火) pm 6時30分~遊学庵/全体会
- 5月12日(金) pm 6時30分~1010シアター・ギャラリー展示準備
- 5月13日(土) am 10時~pm 5時 1010シアター・ギャラリー/芭蕉サミット展示、笠着連句興行
- 5月14日(日) am 10時~pm 5時 高橋~大橋/芭蕉旅立ち「船の旅」体験 1010シアター・ギャラリー/芭蕉サミット展示、笠着連句興行
- 5月23日(火) pm 6時30分~遊学庵/日光街道ウォーキング準備会
- 5月28日(日) pm 1時~5時 日本橋~浅草/日光街道ウォーキング

- <活動日誌 平成18年2月~5月>
- 2月12日(日) 区庁舎/足立区NPO研修終了/懇談会、千住地区文化を考えるNPOの呼びかけ
 - 2月26日(日) am 10時~千住巡見/千住大橋集合~千住宿通り~
 - 3月18日(土) pm 6時~遊学庵/発起人会準備
 - 3月29日(水) pm 6時30分~遊学庵/発起人会

かけはし

NPO 千住文化普及会



千住大橋 大正10年

平成18年8月1日
千住文化普及会発行
代表理事 榎原文夫

東京都足立区千住河原町29-5
遊学庵
TEL/FAX: 03-3881-3232
1hara@adachi.ne.jp
BLOG: sembun.exblog.jp



「芭蕉翁おくのほそ道」ネットワーク」発足

六月二六日、「奥の細道」の魅力の世界に発信する「芭蕉翁『おくのほそ道』ネットワーク」の第一回会議が、千住の東京芸術センターで開催された。自治体による行政主導の「奥の細道サミット」とは別に「民の力」によるネットワークを広げ、「おくのほそ道」を顕彰する各地域の文化交流をはかり、街づくりの活性化にも寄与しようというもの。芭蕉生誕の地・三重県伊賀市、山形県尾花沢市など、各市の文化団体代表ら一人の有志が参加した。

今回話し合われたのは、芭蕉を各地域との関わりの中で学ぶ市民講座「おくのほそ道大学」の設立。各地をめぐり日本の原風景を訪ねるウォークツアーの実施。世界から観光客を呼べるような地域連携の旅の設計。相互交流をはかるホームページづくなど。八月二日の第二回会議まで構想を具体化できるような活動へ化することが申し合わされた。代表理事の榎原文夫は、ネットワーク設立の呼び掛け人として、「奥細道」を世界の著名な「道」の一人に仲間入りさせようという夢を掲げる。会としても、旅の始点の地としての千住の立場を踏まえ、ネットワークの事務局の役割を追求する。

千住文化基礎講座 受講者募集中

「出会いを楽しみ、共に学び、語り合おう」

江戸から平成の現在に至るまで先人が培ってきた千住の文化と知恵を調べ、学び、後世に伝えましょう。今回は基礎講座全六回の募集です。●第一回九月一〇日(日) 一時三〇分〜学びピア研修室にて開講 ●会費全六回六千円 ●詳細は左記の問い合わせ先へ。

〒一〇〇〇三七足立区千住河原町二九五 NPO千住文化普及会
電話 〇三三八八一・三三三二一
メール Ihara@adachi.ne.jp

付けてみませんか

「り」などを行っていただけの方の養成をめざします。

街薄暑奥の細道ここよりす 菖蒲園
高浜虚子に師事し、ヤッチャ場句会を主宰した俳人為成菖蒲園の発句です。大橋から旧街道への入り口に句碑があります。この句に七七の脇句を付けてみませんか。

街薄暑奥の細道ここよりす
軽き足取り香る青葙 風魚
・リズミカルに韻を踏んで、清涼しい旅立ちへの思いが付きました。
街薄暑奥の細道ここよりす
借りた軒下果立つ燕
・旅立つのは人間だけではなさそう。千住の軒下から子はどこへ？
街薄暑奥の細道ここよりす
ポエムロードにそよぐ蕉風/世界に通ず合歓の俳諧/涼風送るヤッチャ場の声/クールビズにて渡る大橋/どこまで続く蟻の行列
・ひとそれぞれ。思いの丈を付けてみて

長谷川浩平の千住事件簿／犯科帖



千住仲町一丁目の長谷川家には、幕末から伝承されていた話があった。

それはご先祖が、維新のときに官軍に追われた幕府側の侍を匿って、町人に変装させ、大八車をあてがうなどして、秘かに逃がしてやったことがある、というもの。

もちろん名乗ることも聞くこともなく、名の知れぬその武士は、「こ

の際、もう無用だから」といって大小の刀をお礼に置いていったというのだ。しかしその刀はどこにも見当たらないままずっと忘れられていた。ところが、あれは忘れもしない第二次世界大戦末期、下町の上空襲撃のこと。目の前で我が家が焼失するのを見届けたその日、それだけでも昭和の証言として語り尽くせぬ程の思いはあるのだが、焼け落ちたその自宅の蔵跡、何もなくなつた灰燼の中から、焼け残つた日本刀が現れたのだ。この場違いなものを見て驚い

た。ああ、あの話は本当だったのか。こんな時にと、まだ子どもだった私は卒然として歴史というものに出会ったのである。(聞き書き)

会員の長谷川さんは、会合ごとに千住の暮らしの歴史を語ってくださいます。その目で見た事柄、経験した出来事を抜群の記憶力でなまなましく語ってくださいます。しかもそのお話は、ていねいに記録され、資料としてまとめられています。これから順次お伝えしていきます。

<p><活動日誌 平成18年6月~7月></p> <ul style="list-style-type: none"> ●6月5日(月) pm6時30分~8時 遊学庵/全体会/基礎講座検討 ●6月16日(金) 芸術プラザ/第1回「芭蕉翁おくのほそ道ネットワーク」出席 ●6月19日(月) pm6時30分~8時 遊学庵/全体会/報告・案件検討 ●6月25日(日) pm4時~ 	<p>遊学庵/千住塾連句会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●7月1日(土)~8月10日(木) (千住文化基礎講座) 受講受付開始 ●7月7日(金) 機関紙「かけはし」第1号発行 ●7月10日(月) pm6時30分~8時 遊学庵/全体会/報告・案件検討 ●7月23日(日) pm4時~ 遊学庵/千住塾連句会
--	--



平成18年9月1日
千住文化普及会発行
代表理事 榎原文夫

〒120-0037 東京都足立区
千住河原町29-5 遊学庵
TEL/FAX : 03-3881-3232
E-mail : info@basyoo.net
http://senjyu.mizubashou.com/

かけはし

NPO 千住文化普及会

大橋 明治10年頃親柱

「橋の日サミット in みやざき 2006」に代表が参加

八月四日を

「はし」の日

八月四日(ハシ)を「橋の日」と、宮崎の有志が発信して二〇年。地域の暮らしや文化と密接なかわりを持つ郷土の川や橋を見直し、ふれあいを深めようという呼び掛けに呼応して、全国に「橋の日」イベントが広がっています。千住では、千住大賑い会が毎月第一土曜日に清掃を行うなど「大橋」を愛する地域住民によってさまざまな啓発活動が行われてきました。そもそも千住の発祥は千住大橋の架橋に始まるといっても過言ではありません。江戸開府に先立つ文禄三年(一五九四)、家康の命をうけた伊奈備前守忠次が難工事の末架橋して以来、洪水での流失などもあって何度も架け替えられてきました。その間、宿駅整備、舟運の隆盛などあいまって、「大橋」は千住宿の繁栄を担ってきたのです。現在のアーチ鉄橋は、昭和二年(一九二七)にそれまでの木橋から架け替えられたもので、今にその歴史を伝えています。

一八日、「橋の日」二〇周年を記念して宮崎市で開催された「橋の日サミット」には、当会の榎原(いちはら)代表がパネラーとして参加。

「橋から見る地域づくりとロマン」のテーマにそって千住大橋に関わる歴史と文化について発表し、千住文化普及のこころを訴えました。



〔基礎講座全六回〕の募集人員に若干の空きがあります。全回参加が困難な方のために、できるだけ補講体制を検討しています。詳細は左記へお問い合わせください。

- 第一回九月一日(日) 一時三〇分〜 学びピア研修室にて開講
- 会費全六回六千円

〒一〇〇〇三七足立区千住河原町二九五 NPO千住文化普及会
電話 〇三三八八一三三三三
メール Thara@adachine.jp

<千住塾連句会>

毎月第4日曜日午後4時から、遊学庵にて連句会を開いています。俳句はもともと俳諧の連歌=連句の発句が一句独立して作られるようになったものです。連句は、芭蕉が発句よりも得意であると自称し、江戸時代に隆盛した俳諧本来の付合文芸です。五七五の長句と七七の短句を交互に付合い一編をなすもので、世界にひとつの共生の文学であるというひともいます。俳句の好きな方はもちろん、川柳などに興味のある方、詩心とことば遊びを仲間(連衆)と楽しみたい方におすすめです。一度遊びにおでかけください。

長谷川浩平の 千住事件簿／犯科帖



この夏、郷土博物館が初の試みとして、現場近くの五反野住区センターに出張展示した「下山事件」。当時の国鉄総裁が轢死体で発見され、自殺説、他殺説が錯綜するまま、戦後の日本の岐路に関わる大きな謎を残す事件の一つとして知られる。

昭和二十四年七月七日。新聞に事件が発表されるやただちに、わが長谷川浩平少年は千住宿場通りを突き抜け、千住新橋を渡って右折、日頃あまり近づくことのない小菅拘置所(当時)の北側へと走った。そして、下山総裁の轢死体が発見された常磐線の土手上がっている。

「当時とは土手の様子もすっかり変わってしまいましたね」と振り返り、「気持ちが悪かった」事件として長谷川氏の記憶に残った。

年。謎は未だに謎のまま。だが、最近「下山事件―最後の証言―」(柴田哲孝著・祥伝社刊)という本が話題になっている。博物館では展示と合わせて、事件当時の様子を知る人を募集したが、今のところさしたる情報は得られていないという。

熱く燃えた球児たち

今年の甲子園は高校野球史に残る名勝負の結果、西東京代表の早稲田実業が優勝を果たしました。東京では、帝京高校と熱戦の末惜敗し、代表の座にはとどかなかったものの、ベスト4に進出した都立足立新田高校の活躍を見逃すわけにはいきません。

この春、足立の教育については、全国標準テスト・進学格差を巡って芳しくない報道が相次ぎました。足立新田高校も一時は荒れた高校として知られていましたが、その後、教職員の献身的な努力、生徒たち自身のがんばりによって、誇るべき学園生活の営まれる学校へと変身しました。もちろん、野球部の成果だけではなく、「野球部の活躍が、

<活動日誌 平成18年8月>

- 1日(火) 「かけはし」2号発行
- 3日(木) 遊学庵/全体会
- 5日(土) 「千住大橋・橋の日」イベント参加
- 8日(火) NPO法人登記完了
- 18日(金) 「橋の日サミット in みやざき 2006」参加
- 20日(日) 1010シアター「足立俳句大会」参加
- 26日(土) 遊学庵/〔千住文化基礎講座〕準備・映像作家集団(ビデオ・ぶらす)会合・映像記録検討
- 27日(日) 遊学庵/第4回千住連句会

ほかにもいろいろユニークな活動に良い作用をしている(学校関係者)という報告が当会にももたらされています。

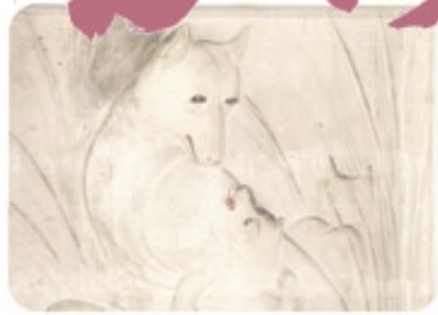
スポーツ文化がことなつて、さまざまな分野への刺激になっているとすれば、とてもうれしいことです。地域の子どもの活躍をきくことほど喜ばしいことはありません。

平成18年10月1日
千住文化普及会発行
代表理事 榎原文夫

東京都足立区千住河原町29-5
遊学庵 〒120-0037
TEL/FAX : 03-3881-3232
E-mail : info@basyoo.net
http://senjyu.mizubashou.com/

かけはし

NPO 千住文化普及会



橋戸稲荷神社の「狐家族図」 鍔絵

第二回 千住文化基礎講座

千住ってどんな場所

九月一日、講師に足立区郷土博物館の多田文夫学芸員をお迎えして、「第一回千住文化基礎講座」が開講。

まず、江戸東京の近郊都市として発展してきた千住のおおまかな位置づけと、千住の後背地の広がりについての解説がありました。初めてカラーで紹介されるという資料「江戸御成筋色分之恩」なども用意され(担当/児玉純也氏)、プロジェクトによる多くの図版にもとづく講演となりました。

大橋の架橋と日光道中・奥州道中の整備は、計画的に作られた町並みをもつ千住宿を陸上交通の拠点として発展させ、五街道の初宿となる四宿(千住・品川・内藤新宿・板橋)の中でも断トツの、人口一万という

橋戸稲荷の狐家族図 伊豆長八と鍔絵(マコト)

橋戸稲荷神社は、区内唯一の土蔵造りの本殿(安政六年(一八五九)築)として足立区の登録有形文化財となっており、その観音開きの扉の内側には伊豆の長八の鍔絵が残されています。鍔絵は、向かって左側に母狐と二匹の子狐、右側に父狐が配されていて、神前にぬ

活況と、とりわけ送迎の地としての特色をもたらしたいいます。

また、河岸場をもち、舟運の発達にともない河川交通網につながる地として、千住市場が商都千住として成長していく過程が説明されました。各地に及ぶ広範囲にわたる物資の集散状況が、史跡・文化財にも特徴的な遺産として反映されており、千住文化は、そうした商圏と重なる文人の系譜の先に花開いたことが指摘されました。

「マイクを持つたら放さない」情熱的な多田さんの講演に、学びピアの研修センターに集まった二五名の参加者はすっかり魅了され、次回の町歩き講座への期待をふくらませました。

かぎき見上げると参拝者は父狐と目が合って、その鋭い視線に射すくめられるような迫力を感じます。

伊豆で生まれた長八(本性入江、文化二年(一八一五)〜明治二年(一八八九))は、志を抱いて江戸に出るや左官の技をきわめ、漆喰で描く鍔絵を芸術の域にまで高めた天才ですが、今では作品の多くは失われてしまっています。橋戸稲荷の狐家族図は残存する貴重な作品であり、中でも傑作の一つと評価されているものです。

「千住の原風景」と題して、土地っ子に話を聴く会が催された(九月三日、安藤昌益と千住宿を調べる会・特別企画)。



長谷川浩平の千住事件簿 犯科帖 ③ 松の湯の般若

お話をくださったのは横山佐吉氏、長島弘二氏、清水繁氏、そしてわが長谷川浩平氏の四名。平均年齢七九・五歳。いわば町の「古老」による貴重な証言の数々があり、聴くよりも話したい様子の方もいて五〇名参加の盛況であった。

毎日毎日が事件の連続だった少年時代。長谷川氏の思い出は、絵とキーワードを使ったミニ紙芝居で語られた。その一つが「松の湯の般若」。

「ある日友だち三人と松の湯にいったらね。湯舟からいきなり般若が立ち上がったんですよ。今日は絵に描いてきましたけど、驚いてねえ。わっと声を

あげてのけぞっちゃった」

その般若は背中一面の彫物で、よく見ればコクポのおじさんではないか。近所のやさしそうなおじさんが、背中にあんなものをしょっていったなんて。帰ってから父親に話したら、「あのひとは仕事師なんだよ」と教えてくれた。仕事師とは鷹職のこと。どうりで小柄だったけど敏捷そうなおじさんだった。

仲町は旧道の東側、源長寺前のいまはもう痕跡もない路地裏に夫婦で暮らしていた。ほかに銭湯で仲良くなって背中を流しっこしたおじさんがいた。その背中の石塔には南無阿弥陀仏とあって、赤い稲妻が斜に走っていた。



イラスト・長谷川浩平

深い地域といえるかもしれませんが、左官の技の伝承を含めて、当会として広く紹介する活動を追求します。

<活動日誌 平成18年9月>

- 1日(火)「かけはし」3号発行
- 5日(水)遊学庵/全体会/講座準備
- 10日(日)学びピア/第1回千住文化基礎講座
- 16日(土)橋戸稲荷神社/伊豆の長八鍔絵鑑賞
- 21日(木)遊学庵/全体会/第2回講座打合せ
- 24日(日)第5回千住塾連句会
- 26日(火)交通安全運動(千住警察)イベント協力

●交通安全俳句
秋の交通安全運動の一環として、俳句連盟(青山文会会長)のご指導のもと「松尾芭蕉を偲ぶ交通安全俳句会」が催され、次の5句が表賞されました。

信号の青美しき辻の秋
君と僕道ゆずりあう爽やかに
付けている婦人警官赤い羽根
青信号渡る人波風涼し
つるべ落とし飲酒運転地獄行き
藤尾尾花
早川紀子
星野綾子
渡辺よし江
関根初男

かけはし

NPO 千住文化普及会

平成18年11月1日
千住文化普及会発行
代表理事 榛原文夫

東京都足立区千住河原町29-5
遊学庵 〒120-0037
TEL/FAX : 03-3881-3232
E-mail : info@basyoo.net
http://senjyu.mizubashou.com/

第二回 千住文化基礎講座

町歩き南北コース

一五日後一時、国鉄南千住駅前に集合。「町歩きのマナー」を確認して出発。小塚原刑場跡の首切り地蔵、回向院の墓石、「解体新書」ゆかりの観蔵記念碑を見学。コッ通りを歩いて素盞雄神社へ。芭蕉句碑を見て千住に集った文人墨客を偲ぶ。

「奥の細道」矢立初めの大橋を渡ったところで、NHK首都圏ネットワークの取材陣と合流、伊豆長八の鎧絵のある橋戸稲荷神社へ。ヤッチャバ跡の旧道を通り、河原町の遊学庵に立ち寄り。仲町の源長寺から路地を抜けて、関屋天満宮碑のある氷川神社へ。安藤昌益「自然真賞道」稿本発掘の地、内田銀蔵、河合栄治郎両博士の生地、森陽外の旧宅跡を見て、お祭りで賑わう宿場通り商店街を縫うように、遊女供養塔のある金蔵寺、閻魔開きが今に続く勝専寺を経て、千住宿の本陣跡案内板を見て、宿場町の特徴を再確認。名物槍掛け団子をほおぼり、伝馬屋敷の面影を残す横山家、江戸時代から続く骨接ぎの名倉を経て旧水戸街道に入り、解剖人塚の清亮寺から目の絵馬の長

千住町歩き 南北コース



ガイド担当・中島喜文

<活動日誌 平成18年10月>

- 1日(日) 「かけはし4号」発行
- 5日(木) 遊学庵/全体会/講座打合せ
- 13日(金) 遊学庵/講座準備
- 15日(日) 第2回「千住文化基礎講座」
町歩き南北コース
- 19日(木) 遊学庵/千住空襲記録写真検討
- 22日(日) 遊学庵/第6回千住塾連句会

円寺まで、三時間半を一気に歩き通す。

強行軍と解説が行き渡らなかつた点、課題を残しつつも、町歩きの基礎として概ね好評の内に解散。その後有志による交流会開催。

講座に参加して

田中国弘(会楽学の会)

地域回帰を願い、あだちの地域の歴史を楽しく学びたいという思いから参加しました。

古い絵地図、的確な資料、解説を駆使した講座はまさに私の欲望を満たしてくれました。

また町歩きでは、千住の間屋等の子孫の方しか語れない生の迫力ある話しこそ、地域の歴史を学ぶ醍醐味でした。

しかも当日の様子がNHKでも放映され、すぐ友人から反響をもらうなど楽しい一日でした。私も語り部になれそうかな。

【千住塾連句会第1作】

脇起歌仙「街薄暮」の巻

千住塾連句会 於遊学庵

街薄暮奥の細道こよりす 為成昌蒲園
 軽き足取り香る青草 風魚
 少女投げ少年野球たけなわに 昌幸
 親のころもどこふく風と 砂南
 劇場にオレンジ色の月欠けて 蟻十
 借りた軒下残る燕 葦生
 肝臓をなだめすかして今年酒 健悟
 わさびの効いたマカデミアに噓せ 丁那
 刑事には過ぎた女房と娘たち 那那
 たまの休みに鬼剣揃む 幸十
 飽きるほど春吸い込んで爪染めて 生那
 辰巳あがりの蝶の群れ飛ぶ 幸十
 傘かしげ微笑そへる江戸しぐさ 南那
 月に転んだ寒卵なり 幸十
 ガムランにワヤンの影のゆらめきて 南那
 ラインダンスを荷風おかずに 幸十
 通り抜けできぬ路地裏花盛る 生那
 四駆で巡る鐘霞む古都 南那

昭和二〇年四月一三日の空襲で、長谷川家が全焼してしまったことは、既に触れた。焼跡に残されたのは金庫のみ。悔しくて悔しくて焼夷弾の燃え殻を蹴ッ飛ばした浩平少年であった。都内でも有数の巨木として知られていた源長寺のケヤキも燃えてしまった。
 長谷川浩平の千住事件簿
 4 焼け野原の記憶と記録
 玉虫が捕れた
 ので縄張りしていたのに。玉虫は筆筒に入れておくといいて聞いていて、母親に渡すと喜んでくれたのだ。戦後、焼け残ったそのムロにトタンの屋根をかけたねぐらにしたりとがいた。当時の住職は見て見ぬ振りをしていただけだ。

悲慘な景色の前でポーズを取っている。さらに一〇年後、見事に復興した町並みもパノラマ写真で記録している。
 人びとはなんとも遅い。そして戦争は人殺し、文化の敵、環境破壊の極みであること(聞か書き)

誰に咲くやらニキビつぶして 我孫
 命と孫手を握りしめ鯛雲 南十
 ストラップには秋の七草 孫南
 鹿芝居定九郎なり我こそは 孫南
 バズルに遊ぶピース増やして 孫南
 きな臭き海に向こうの独裁者 生十
 ポロ靴履いでバスタくるくる 生十
 本枯らしの縁に忘れし風車 幸十
 岩盤浴で絞る脂身 幸十
 忍び足戸に肩細き月の立つ 幸十
 夕化粧してひそむくノ一 幸十
 運動会棒倒しなく騎馬戦も 幸十
 太鼓聞かせる無法松いて 幸十
 雄鶏の眠りを覚ます声猛く 幸十
 わが荒屋は土匂う里 幸十
 花の雨浅草帰り船のバス 幸十
 おぼろの空に競う大風 幸十
 平成一八年六月二五日起首 九月二四日満尾 執筆 魚南孫幸南十幸南十幸生十孫南十魚